

はたら 働かない「働 きアリ」

はたら かん ゆうめい けんきゅう いっしょうけんめいはたら
働 きアリに関する有名な研 究がある。一 生 懸 命 働 いているように
み ぎょうれつ かんさつ はたら よこめ うご
見えるアリの行 列 をよく観 察すると、働 いているア리를横目にただ動き
まわ 回っているだけのアリたちがいるという。彼らは、一 見 忙 しそうに動いて
じつ ぎょうれつ そ ゆ き かつ
いるのだが、実は行 列 に沿って行き来しているだけでエサを担いでいるわ
うご
けではないらしい。動いているだけ、“動いているふり”をしているだけとい
ぜんたい わり はたら かんさつ
うアリが全体の2割はいるという。働 いているアリについてもよく観 察し
はたら ふつう はたら ぜんたい
てみると、たいへんよく 働 くアリと、普通の 働 きのアリがいる。全体の
わりあい かんさつ はたら わり ふつう はたら わり まった
割合を観 察するとよく 働 くアリが2割、普通に 働 くアリが6割、全 く
はたら わり こうせい
働 かないアリが2割という構成になるようだ。

はたら いっ しょ あつ あらた そしき
そこで、よく 働 くアリだけを一か所に集めて、新 なアリの組織をつくっ
はたら で はたら
てみる。すると、なぜかまた 働 かないアリが出てくる。よく 働 くアリだけ
しゅうだん なんと じかん た しぜん ひりつ しごと
の集 団 を何度つくっても、時間経つと自然に2 : 6 : 2の比率でアリは仕事
ぶんたん ぎゃく はたら しゅうだん
を分担するようになる。逆 に 働 かないアリだけの集 団 をつくと、さす
さぎょうのうりつ お はたら しゅうだん なか
がに作 業 能率は落ちるのだが、それでも 働 かないアリの集 団の中からよ
はたら わり どうじょう
く 働 くアリが2割ほど登 場するようだ。

ぞん かた おお おも かんさつけんきゅう せかい ちゅうもく
ご存じの方も多いと思うが、この観 察研 究 はビジネスの世界でも注 目

されている。大企 業 で “できる” 人材だけを^{あつ}集めてスタートした^{とくめい}特命プロジェクトが^{だいしっぱい}大失敗したり、プロスポーツの世界でスタープレイヤーを^{あつ}集めたチームがまったく^{ゆうしょう}優勝にからめなかったりするたびに、この^{ほうそく}法則は^あかなり当たっているのではないかという^き気がしてくる。

映画でもドラマでも^{えいが}脇役が存在しない^{わきやく}脚本には^{そんざい}魅力がない。『水戸黄^{きやくほん}門』には^{みりよく}助さん格さんだけでなく “^みうっかり八兵衛^{とこう}” が必要である。『ハリー・ポッター』シリーズには、ロンやハーマイオニーだけでなく、“ネビル・^でロングボトム” が^{きも}出てこない^おと^つ気持ちは^お落ち着かない。

つまり、^{そしき}組織には偉大なる^{いだい}脇役^{わきやく}たちがいないと、^{みやくはく}脈拍^あが上がりっぱなし、^でアドレナリンが^{そしき}出っぱなし^{じょじょ}になってしまい、^{ひへい}組織は徐々に^{ひへい}疲弊していくのではないか、というのが^{わたし}私^{かんさつ}の観察なのである。